

第3節

「思考力、判断力、表現力」
の育成に焦点を当てた授業実践

研究内容（１）において整理された本校の「思考力、判断力、表現力」の育成に関する課題についての解決を図るために、研究内容（２）の「思考力、判断力、表現力」を引き出す授業及び指導・支援の在り方の検討に取り組んできた。本研究では（１）と（２）と同時進行で研究内容（３）の「思考力、判断力、表現力」の育成に焦点を当てた授業実践にも３ヶ年を通して取り組んできた。

本研究１年次には学部ごとに授業研究を行った。１年次の授業研究では研究方法ア「『思考力、判断力、表現力』の育成に関する課題を踏まえた授業研究を行う」に取り組んだ。「思考力、判断力、表現力」の育成に関する課題の整理を終え、職員意識調査を基に「生活を切り拓く力」につながる【伸ばしたい「思考力、判断力、表現力」】について検討し、「目標設定と学習評価」を教師がより意識的に工夫することができるよう学習指導案の様式を整えて実施した研究授業の実践である。

研究２年次には学部縦割りの研究グループを編成し、グループ内で授業研究を行った。研究方法イ「『思考力、判断力、表現力』を育成する教師の指導・支援の検討を踏まえた授業研究を行う」の取組で、「『思考力、判断力、表現力』を育成する教師の指導・支援の在り方の検討」を基にした研究授業の実践である。

研究最終年度の３年次は、学部ごとに授業研究を行った。研究方法ウ「『思考力、判断力、表現力』を引き出す授業作りのポイントを踏まえた授業研究を行う」に取り組み、１、２年次の研究を踏まえて設定した「佐大附特版の『思考力、判断力、表現力』を引き出す授業作りのポイント」を授業作りに生かした研究授業の実践である。

１ 「思考力、判断力、表現力」の育成に関する課題を踏まえた授業研究を行う。

今期研究の１年次令和４年度の１０月から学部別に授業研究に取り組むにあたって、各学部どの授業を取り扱うかについて検討を行うこととなった。「①教科別の指導の国語科や算数科（数学科）」「②教科別の指導の音楽科や体育科（保健体育科）や図画工作科（美術科）」「③各教科等を合わせた指導の生活単元学習」の指導形態や教科のいずれかを選択して研究授業をすることとした。選択するにあたっては、「思考力、判断力、表現力」を引き出す授業とする視点から、有効となる点や難しくなる点等について明らかにしながら、検討した（表１６）。

〔表 16 授業研究に有効となる点や難しくなる点〕

や算数科（数学科） ①教科別の指導の国語科	・教科の見方・考え方を働かせる「思考力、判断力、表現力」をどう育成していくかという視点で、教材の工夫や発問の仕方を含む「指導・支援について」の検討が深められる。 ・学習指導要領で示された学力としての「思考力、判断力、表現力」を、一人一人の認知の特性に応じて捉え直して個人目標を設定することが求められる。 ・研究テーマ「生活を切り拓く」につながる児童生徒の生活との結びつきについては、検討が難しくなるのではない。
--------------------------	---

体育科)や図画工作科(美術科)	②教科別の指導の音楽科や体育科(保健) ・学習指導要領で示される目標や内容は抽象度の高い表現であるため、評価規準の設定について、十分な協議を必要とする。 ・3教科とも生涯学習や、現在及び将来の児童生徒の生活と結びつけて、生活を切り拓くというテーマに向けた授業作りを行いやすい。 ・児童生徒のすべての活動が、「表現力」として見なされ、安易な目標設定及び評価が行われてしまうおそれがある。 ・児童生徒が表現に至るまでに、「どのように考えたのか」「どのような理由により、どのように判断したのか、選び取ったのか」を、事前に構想し目標として設定する必要がある。
元学習	③各教科等を合わせた指導の生活単元学習 ・現在及び将来の生活上の課題から単元を設定するので、生活を切り拓くというテーマに向けた授業作りを行いやすい。 ・例年していたからという活動ありきの生活単元学習では、研究テーマに迫る提案内容を構成することはできないのではないか。 ・授業の展開では、児童生徒が自ら考え、解決方法を工夫したり、選択したり、決定したりする場面を設定しやすいのではないか。 ・選択や決定や判断に至るまでの、児童生徒の心の動きをどう読み解くかについての検討を深めなければならない。

検討する中では、以下のような意見が上がり（表 17）、結果としては全学部、「③各教科等を合わせた指導の生活単元学習」の指導形態で研究授業を行うこととなった。

【表 17 指導形態や教科を選択するにあたっての意見】

①国語・算数(数学)	・単元計画段階で評価規準を設定するにあたって、国語・算数(数学)が考えやすいと思われる。 ・国語・算数(数学)で身に付けた「思考力、判断力、表現力」を、どのように将来の生活に役立てていくかということが考えやすい。 ・将来の生活において、相手の話の要点に注意して聞く力や、自分の考えを相手に分かるように伝える力などの児童生徒にも身に付けさせたい力である。一人一人の特性に応じた手立てを試行錯誤することで「思考力、判断力、表現力」の向上を目指したい。その取組を国語の授業の中で行いたい。 ・言語活動の充実が求められている。その中心的に教科別の指導の国語を位置付け、そこで身に付けた基礎的な力が他の授業や活動で生かされるような取組を行いたい。 ・「思考力、判断力、表現力」の育成に関する課題のアンケートの中で、「説明する力・コミュニケーション力」が挙がっていたので、国語科の授業で取り組みたい。
------------	--

科・体育科（保健体育科） ②音楽科・図画工作科（美術）	・「思考力、判断力、表現力」の育成に関する課題の整理の中で、表現の評価に偏りがちであるという課題が見えたので、児童生徒の活動や作品から思考や判断をどのように見取るかについてしっかり検討したい。 ・生涯学習を見据えた取組みは重要だと考える。 ・ICT 機器を活用し、振り返り活動の充実を図りたい。その中で、児童生徒の「思考力、判断力、表現力」の育成を目指した支援の在り方を検討していきたい。
③各教科等を合わせた指導（生活単元学習）	・小学部では生活単元学習に毎日取り組むため、日々の子どもたちの思考・判断・表現の変容が見取りやすいと考える。 ・各教科等を合わせた指導は本校のカリキュラム上での位置付けが大きいので、授業研究を通して検討を深めるべきである。時数だけでなく、授業の質の向上を図りたい。 ・児童生徒自身が「自分の生活の中で今後生かしていけるように」という視点で、児童生徒に合った「思考力、判断力、表現力」の育成を目指した授業作りができると考える。 ・「生活のニーズ」からの単元を組み、またはその考え方で試行的な授業作りを行いたい。広く提案できる生活単元学習の授業作りとしたい。 ・前期研究からの課題として、各教科等を合わせた指導と向き合っていくことが挙げられていたため。 ・個別の指導計画の目標設定にも表れているが、教科別の指導と各教科等を合わせた指導形態の関連付けの課題にも取り組みたい。 ・児童が自ら考える、選択する、決定する等の学習場面が設定しやすい。特に目に見えづらい「思考力」へのアプローチについて、子どもの段階に応じた手立てを検討していきたい。

（１）小学部 生活単元学習「すきないきものにへんしんしよう」

小学部では、「思考力、判断力、表現力」に焦点を当てた授業作りについて検討を深めるにあたって、小学部A組を対象として単元を設定することとした。１年生３名、２年生３名の計６名の児童は、生き物に興味があり、５月頃に校庭で採集したチョウの幼虫を育てる経験をした。どの児童も休み時間の度に虫かごを覗き込み、蛹に金色の光るとげがついていることや、チョウが羽化する様子を見て、身振りや言葉で驚きや喜びの気持ちを教師に伝えようとしていた。

そこで、秋の学習発表会では、学級で育ててきたチョウの成長についての発表を行った。さらに、チョウにちなんだ楽曲を用いた楽器演奏や、自分で制作した羽をつけ身体表現を行った。チョウになりきってステージを飛び回り、虫かごからチョウが空へ羽ばたいていった様子を自分たちなりに表現していた。また、展示物としてみんなでチョウのパネル作りに取り組み、最後まで協力し合う児童の姿が見られた。

このように、児童は授業の中で音楽に触れたり、制作活動に取り組んだりしながら、好きなものに対する思いや感じたことを、自分なりに表現する経験を少しずつ積み重ねてきた。その一方で、普段の生活の中においては、自分の思いを児童それぞれの方法・手段で表現しようと

することがまだ少ない。学校生活全体を通して、自分の思いを表現できるような経験を積み重ねていくことが重要だと考えた。

そこで、本研究授業では、好きな生き物が住んでいる世界をイメージした舞台で、自分で作った衣装を身に着け、音楽に合わせて生き物の動きを自分なりに表現する学習に取り組むこととし、「すきないきものにへんしんしよう」の単元を設定した。また、生き物になりきって身体を動かすことを通して、ごっこ遊びの楽しさを味わいながら遊びに主体的に取り組む姿を引き出したいと考えた。

本生活単元学習を計画するにあたっては、図画工作科と音楽科の小学部1段階及び2段階の内容から指導内容を選択し、育成を目指す資質・能力の3つの柱に沿って単元目標及び評価規準、単元計画を設定した。

【単元目標及び評価規準】

	柱	単元目標	評価規準
図画工作科	ア	様々な材料に触れながら、教師と一緒に色をつけたり貼ったりすることができる。(小1)	様々な材料に触れながら、教師と一緒に色をつけたり貼ったりしている。
		様々な材料に触れながら、色をつけたり貼ったりすることができる。(小2)	様々な材料に触れながら、色をつけたり貼ったりしている。
	イ	好きな生き物を思い浮かべながら、材料を選ぶことができる。(小1)	好きな生き物を思い浮かべながら、材料を選んでいる。
		好きな生き物を思い浮かべながら、気に入った材料を選んだり、イメージに合った材料を選んだりして作ることができる。(小2)	好きな生き物を思い浮かべながら、気に入った材料を選んだり、イメージに合った材料を選んだりして生き物の衣装や舞台を作っている。
	ウ	素材に関わろうとしたり、教師と一緒に作る活動に取り組んだりすることができる。(小1)	素材に触れて関わろうとしたり、教師と一緒に生き物の衣装や舞台を作ったりしている。
		自分から素材に関わろうとしたり、作る活動に進んで取り組んだりすることができる。(小2)	自分から素材に関わろうとしたり、進んで生き物の衣装や舞台を作ったりしている。
音楽科	ア	音楽を感じて体を動かすことができる。(小1)	音楽を感じて体を動かしている。
		曲のテンポやリズムに気付き、音楽を感じて体を動かすことができる。(小2)	明確なテンポの違いに気付き、音楽を感じて体を動かし方を工夫している。
	イ	音楽を聴きながら、好きな生き物の動きを自分なりに体で表すことができる。(小1)	音楽を聴きながら、自分なりに好きな生き物の動きを体で表している。
		曲のテンポやリズムを感じ取りながら、好きな生き物の動きを体で表すことができる。(小2)	曲のテンポやリズムを感じ取り、合わせながら好きな生き物の動きを体で表している。
	ウ	音楽を聴いて、自分から体を動かすことができる。(小1、2)	・音楽を聴いて、体を動かしている。(小1) ・音楽を聴いて積極的に体を動かしている。(小2)

【単元計画】

次	学習内容	指導内容
1	好きな動物に変身しよう。 ・ なりたい動物を決める。 ・ 舞台を作る。 ・ 衣装を作る。 ・ 好きな動物の動きを表現する。	図画工作科 表現 ・ 材料等から表したいことを思いつくこと。 ・ 想像したこと、見たことから表したいことを思いつくこと。 ・ 身近な材料を使い、貼ったり、形をつくったりすること。 音楽科 身体表現 ・ 音楽に気付くこと。 ・ 曲の拍やリズムに気付くこと。 ・ 音や音楽を感じて体を動かすこと。 ・ 拍やリズムを意識して身体を動かすこと。
2	好きな海の生き物に変身しよう。 ・ なりたい海の生き物を決める。 ・ 舞台を作る。 ・ 衣装を作る。 ・ 好きな海の生き物の動きを表現する。	
3	お客さんの前で発表しよう。 ・ リハーサルをする。 ・ 発表会をする。	
4	思い出シートを作ろう。	国語科 書くこと 図画工作科 表現

単元の個人目標を設定した。ここでは児童④について記述する。

【単元の個人目標】

図画工作科	ア	シールや毛糸等の様々な材料に触れながら、色をつけたり貼ったりすることができる。(小2)
	イ	好きな動物や海の生き物を思い浮かべながら、イメージに合った材料をそれぞれ選んで作ることができる。(小2)
	ウ	自分から様々な素材に関わろうとしたり、好きな動物や海の生き物の衣装作りや舞台制作に進んで取り組んだりすることができる。(小2)
音楽科	ア	曲のテンポやリズムの変化に気づき、音楽を感じて身体を動かすことができる。(小2)
	イ	曲のテンポやリズムを感じ取りながら、自分なりに音楽に合わせて好きな動物や海の生き物の動きを身体で表すことができる。(小2)
	ウ	音楽を聴いて自分から身体を動かしはじめることができる。(小2)

実際の授業においては、第1次、第2次の1時目で好きな生き物を選ぶ際に、生き物への興味をもたせ、姿や動きのイメージを膨らませられるように動画を見る時間を設定した(図32)。児童④はこれまでにアニメや絵本で見てきた動物や海の生き物のイメージをすでにもっており、動画を見て「ウサギやイルカになりたい」という気持ちをもつことができた。



〔図32 生き物の動画を見る〕

生き物の衣装を作る活動（図 33）では、イメージを表現できるような素材を自分で選ぶように、フェルトや羊毛やビニール等、扱いやすく作成しやすい様々な素材を準備した。児童④は、衣装等の素材について、色々な素材を触ったり、教師と「ピンクの女の子のイルカはツルツルがいいな」と話したりして、試行錯誤しながら選択する様子が見られた。試行錯誤を経て、うさぎでは柔らかいフェルトを、イルカではつるつるしたビニールを使って、生き物のイメージに合った材料を選んで作ることができた。



〔図 33 衣装作り〕

音楽を聴きながら好きな生き物になりきって身体表現を行う活動（図 34）では、テンポやリズムに変化のある曲を準備した。音楽がなったことに気付いて体を動かし、教師と一緒に体を動かしたり、テンポの違いを感じ取り自分なりに生き物の動きを想像しながら表現できるように、教師が児童の動きを見ながら言葉かけや賞賛を行ったりした。児童④は曲のテンポを感じ取りながら、ウサギが飛び跳ねる姿やイルカが水面を飛び跳ねる姿を体の動きで表現していた。テンポの変化に気付くと、移動やジャンプのスピードを自分で調節する姿が見られた。



〔図 34 生き物になりきって身体表現する様子〕

毎時間の振り返り活動では、自分の様子や動きを確認できるように、電子黒板を活用して自分の活動の様子を画像で見る活動を取り入れた。児童④は自分の画像を見て笑顔になり、「また変身するのが楽しみ」と発言する等、達成感や期待感をもつ様子が見られた。単元を終了しての児童④の音楽と図画工作の個人目標はすべて達成できたと評価した。また、他の児童についても、概ね単元の個人目標を達成できたと評価することができた。

研究授業の「よかった点」「難しかった点」を以下のようにまとめた。

【よかった点】

- ・好きな生き物から授業に発展させたため、児童が主体的に取り組むことができた。
- ・生き物の動きをイメージするために動画を活用することで、児童が「どんな動きがいいかな」と自分なりに動画を見て考え、「この動きをしてみよう」と選択し、それを体全体で表現できた児童もいた。

【難しかった点】

- ・本人なりに表現している姿を見ることができたが、そこからどんなことを児童が考えているかを見取ることが難しかった。
- ・実際の生き物を触ったことがない中で、素材をイメージすることが難しい児童もいた。
- ・「次の日はこうしてみよう」という活動のイメージを広げるような振り返りをするのは難しかった。

本研究授業では、児童がもっているイメージを衣装や小道具作り及び音楽を聴きながらの身体表現によって表現する力を高めることができたと考える。本単元に加えて普段から、本学級の児童が自分の思い付いたことを表現することを促したり、支援したりするような指導を心がけたことにより、今年度の終盤では休み時間等の普段の学校生活において、自分が思い付いたことを自分なりの方法で積極的に教師や友達に伝えようとする姿が見られるようになった。また、みんなの前で発表することに対し消極的だった児童も、自分から前に出ることができるようになってきた。

まだ低学年であるために、表現の手段は限られているが、今後も意欲的に表現する態度の育成を目指して、自分の思いを表現する楽しさを十分に味わうことができるような授業作りを続けていきたい。また、この取組においては、児童が思考することについての教師間の検討は不十分だった。目標設定や評価規準の設定において、さらに検討を深めるとともに、今後も児童の好きなことや興味のあることから授業作りを行い、児童が興味の幅を広げながら様々な経験を増やしていけるようにしていきたいと考えた。

(2) 中学部 生活単元学習「パワー100%」

中学部では、2年生を研究授業の対象学級として授業研究に取り組んだ。本学級の生徒は、男子3名、女子2名の計5名が在籍している。みんな穏やかな性格で互いの関わりは少ないものの、困っている生徒がいたりそっと手助けをする生徒が多い。障害の特性や認知等の発達状況は多様である。特にコミュニケーション面では、発語が難しく身振りや描画で伝えようとする生徒、これまでの経験によって話すことに自信がもてないでいる生徒、場面に応じて適切な言動をすることに困難さがある生徒等がおり、言語での表現には個別の支援が必要である。

普段の授業では、落ち着いて学習に取り組むことができているものの、背中が丸まっていたり、足を投げ出して座る等、姿勢の保持が難しかったり、疲れやすく体力の面からも集中を持続することが難しかったりする様子が窺えた。しかし、運動が全く嫌いという訳ではなく、昼休みに友達同士で遊んだり、自分にもできそうなことであれば、体育の授業で積極的に活動したりする姿が見られてきた。また、本学級では年間を通して、生活リズム・栄養・運動の3つの項目で自分の健康について考える学習を設定し、取り組んできた。

本単元では、体の各部位に注目し、その部分の筋肉を伸ばしたり縮めたりする動きを考える活動を設定して、これまでの学習と関連付けながら、自分の体に対する知識を深めると共に、自分の健康への関心を高め、普段の生活の中でも体を動かす機会を増やそうという意欲へとつなげていくことを目的とし、理科と保健体育科の内容を指導内容とすることとした。

また、生徒が主体的に学習に取り組むことができるように、体の各部位を動かすよい運動を動画に撮り、YouTuber になりきって教え合う活動を取り入れた。その際には、グループ内で教え合ったり協力しあったりすることができるように、2グループに分かれて動画を撮ることとした。

【単元目標及び評価規準】

教	柱	単元目標	評価規準
理科	ア	人の体には骨と筋肉があることを知ることができる。(中2)	人の体には骨や筋肉があることを知ろうとしている。
	イ	人の体の各部位の動かし方や力の入れ方を考えて、自分の体を動かすことができる。(中2)	筋肉の力の入れ方や伸び縮み、関節の動かし方を意識しながら、自分の体を動かそうとしている。
	ウ	骨や筋肉の動きについて学習したことを、日常生活の動きに結び付けて、生かそうとすることができる。(中2)	骨や筋肉の動きについて学習したことを、日常生活の動きに生かそうという意欲を伝えている。
保健体育科	ア	健康な生活に必要な習慣や生活の中の運動の仕方を身につけることができる。(中1、2)	健康な生活に必要な習慣や、生活の中の運動の仕方を知っている。(中1)
			健康な生活に必要な習慣や、生活の中の運動の仕方を身に付けようと実践している。(中2)
	イ	日常生活の中の運動をイメージしながら、体の各部位を大きく動かすための工夫をすることができる。(中1、2)	生活の中の運動で、体の各部位をどう動かせばよいかを考えている。(中1)
			生活の中の運動で、体の各部位をどう動かせばよいかを、自分で試したり、他者の意見を聞いたりして考えている。(中2)
	ウ	健康的な生活を送ろうという思いをもち、進んで運動を行うことができる。(中1、2)	学校生活の中でも運動しようと意識している。(中1)
			健康的な生活を送るために、学校生活の中でも運動しようと意識して表す場面が増えている。(中2)

【単元計画】

次	学習内容	指導内容
1	・体を動かした経験について考える。 ・体を動かして可動域をチェックする。 ・いろいろな運動の動画を見る。 ・人の体には骨や筋肉があることを知る。	・人の骨や筋肉の動きや自分の体の可動域(理科-中2) ・体づくり運動(保健体育-中2)
2	・テーマにする体の部位を決める。 ・筋肉や骨の動きを確認する。 ・部位を動かしたり伸ばしたりする動きを考える。 ・動画を撮影する。 ・撮った動画を比較し意見を出し合う。	・人の骨や筋肉の動き(理科-中2) ・条件を変えたいいくつかの運動、体の動きの違い(保健体育-中1) ・体づくり運動(保健体育-中2)

3	・他学年に向けて上映会をする。 ・自分の生活の中で体を動かす計画を立てる。 ・単元の振り返りをする。	・生活経験を基に体の動きを予想すること (理科一中2) ・自分の健康のための活動(保健体育中1) ・けがの防止(保健体育-中1) ＊健康な生活(体育-小2)
---	--	---

本学級生徒の「思考力、判断力、表現力」の育成を目指すにあたっては、①意欲、②安心、③思考の3つをキーワードとして、具体的な支援について教師間で検討を行った。

①意欲	・生徒が楽しみながら体のつくりについて学べるように、クイズやゲーム形式を取り入れる。 ・生徒が興味をもっている YouTube を取り入れ、「YouTuber になろう」というテーマで学習に取り組むようにする。 ・体を動かしたくなるような BGM を準備する。
②安心	・チームのメンバーは男子と女子に分け、同じメンバーで活動を繰り返すことで、安心して生徒同士が協力したり工夫したりしやすい環境を作る。 ・次中の毎時の授業は同じ展開とし、活動の見通しをもちやすいようにする。 ・他者に見られることの恥ずかしさを軽減するために、目隠しブースや変装グッズを準備する。
③思考	・1次の学習では、自分の体だけでなく友だちや教師の体を触り、人体の特徴に気づけるようにする。 ・考えを整理しやすいように、対象とする体の部位を1か所設定して、毎時の動画を作成するようにする。 ・「どちらの方がより全力(100%)の動きか」という視点で考えられるように、自分たちで作成した2本の動画を比較するようにする。 ・体の動きを引き出すような、様々な道具を準備する。 ・振り返りでは、具体的にどんなことに気付けたか、どんな体の動きを考えられたか等について、自分の考えを発表する場を設定する。

第1次の体のつくりについて知る学習においては、電子黒板の画像を指さしたり、カードを提示したりして答えるようにしたところ、話し言葉による表現が難しい生徒も、楽しそうな表情でクイズに答える様子が見られた(図35)。

第2次の、テーマとする体の部位の動きの動画を作成する学習においては、毎回同じ手順で行うようにしたため、撮影機材や運動に使う道具等を自分たちで準備するようになった。さらに、機材の使い方にも慣れ、交代しながら動画を撮る等、一連の活動を自分達で進めることができるようになった(図36)。動きを考える



〔図35 電子黒板を指さしてクイズに答える様子〕

場面では、いろいろな道具を持ってきて、実際に動いてみてどの部位が動いているか確認する等、試行錯誤しながら取り組む様子が見られた。また、友達の動きを見て真似をしたり、2人で協力して行う運動を考え、友達にそれを伝えて一緒に行ったりしていた。

撮った動画を確認して意見交換する場面では、「もっと大きく動いた方がいい」と気付いたことを友達に伝えたり、友達の動画を見て自分もやってみて確認したりする姿が見られた。

本研究授業では、生徒は単元の終盤には、授業展開の見通しをもって自分たちで活動を進めることができるようになった。動画撮影だけにとどまらず、準備や片付け等の場面で積極的に行動する姿が見られた。さらに、考えた動きができるように友達に説明したり、動画を見比べて気付いた事を発言したりする等、生徒が自ら考え、考えたことを表現する姿を見ることができた。本単元では、言葉ではなく身体の動きとして「思考していることの表現」を求めているので、言葉での表現に苦手さを感じている生徒にも適していたと考える。生徒の表現が増えると、生徒が思考している内容を教師が見取りやすいということも実感した。

今後は、生徒が身に付けた知識や技能を生かして、考えたり工夫したりする場面をさらに広げていけるようにしたい。具体的には、「体育の授業において、自分の身体について意識を向けやすいように部位を具体的に示す等の工夫をする」「実態に応じたグループ別に行っている国語や算数で学んだことを生活上で生かすことができるように、学級での生活単元学習等に指導内容として取り上げ、教科横断的な指導を目指す」「学校で学んだことや習得したことについての情報共有を家庭と密に行うようにし、定着や発展を狙って、家庭にも取組の協力を仰ぐようにする」等の取組ができるのではないかと考えた。



〔図 36 協力しながら撮影をする様子〕

（３）高等部 生活単元学習「学校改善プロジェクト」

高等部では、「思考力、判断力、表現力」に焦点を当てた授業づくりについて検討を深めるにあたって、１年生を対象として単元を設定することとした。本学級は、女子１名、男子４名計５名の生徒が在籍し、４名は中学部２段階の内容を中心に、１名は小学部２、３段階の内容を中心に学習している。生徒一人一人の特性は様々だが、明るく元気な生徒が多い。

本学級の生徒のここまでの育ちを振り返ってみると、入学当初は、担当した役割を果たしたり、決まりを守ったりする等自分のことを中心に行動していたが、１０月の就業・施設体験を終えた頃から、少しずつ身近なところで人が困っていると進んで話しかけたり、学校全体の集会の片付けを行ったりして、周囲の人のことを考えた上での主体的な行動が増えてきている。学部や学校全体のことに関心をもち、自分が学校の中心となって貢献していこうとする気持ちが芽生えてきた。

そこで、本研究授業では「学校改善プロジェクト」と題し、学校の課題に目を向け、その課題に自分たちなりに解決する方法を考える生活単元学習に取り組むこととした。本校では、2月に児童生徒会選挙を行っており、高等部2年生は毎年この時期の生活単元学習として児童生徒会選挙に向けて学習を行っているので、本単元の終了後には、対象学級の1年生も2年生と協力しながら児童生徒会選挙活動に取り組むこととした。

単元の中心的な指導内容としては、社会科の「社会生活に必要なきまりの意義について考え、表現すること」、生活科の「周囲の状況を判断し、集団生活の中での自分の役割と責任について考え、表現すること」、国語科の「他者の意見や考えを聞いたり読んだりして知ることや、自分の考えや意見を生み出し、他者へ伝えること」を設定した。

【単元目標及び評価規準】

		単元目標	評価規準
社会科	ア	よりよい学校生活にするために必要な役割や方法、仕方を知ることができる。(中2)	児童生徒会の選挙に向けた学習活動で、よりよい学校にするための必要な知識や技能を身に付けている。
	イ	学校生活をよりよくするために自分ができる役割を考え行動することができる。(中2)	よりよい学校にするために周囲の状況を判断して、自分ができることを考え、その手立てや方法を考え、表している。
	ウ	よりよい学校生活について考えたことを、学校生活や社会生活の中で生かす大切さを自覚することができる。(中2)	身に付けたことや考えたことを学校生活の中で生かしながら、主体的に活動に取り組んでいる。
生活科	ア	よりよい学校生活にするために簡単な役割を果たすための知識や技能を身に付けることができる。(小3)	簡単な役割を果たすための知識や技能を身に付けている。
	イ	自分でできる簡単な役割を選ぶことができる。(小3)	集団活動に進んで参加し、簡単な役割を選んで果たしている。
	ウ	自分の身の回りにある学校やその生活に目を向けて生活を豊かにしようと活動することができる。(小3)	学習活動に進んで参加し、身に付けたことや考えたことを学校生活の中で生かす大切さを知ろうとしている。
国語科	ア	理解したり表現したりする語句の量が増え、自分の考えを表す言葉として身に付けることができる。(中2、小3)	・友達や教師との関わりの中で聞いたり、集めた資料を読んだりして、自分の言葉として身に付け、話したり書いたりしている。(中2) ・身近な人との会話を通して、言葉には物事の内容を表す働きがあることに気付いている。(小3)

イ	見たり聞いたりしたことをもとに、学校生活をよりよくするために必要なことを考えて、相手に伝わるように書いたり、発表して伝えたりすることができる。(中2、小3)	・見聞きしたことの中から、学校生活をよりよいものにするために必要なことを大まかにまとめながら、相手に伝わるように話の構成を考えたり、工夫したりして伝えている。(中2) ・友達の話や発表を聞いて、絵や写真等を手掛がかりに、自分の伝えたいことを考えて、絵や写真を選ぶことや見聞きしたことについて当てはまる言葉や図を探している。(小3)
ウ	言葉や様々な語句がもつ良さに気付き、思いや考えを伝え合おうとする態度を習得することができる。(中2、小3)	・友達同士で思いや考えを伝え合おうとしている。(中2) ・友達の思いや考えを知ったり、自分の思いや考えを伝えたりしている。(小3)

【単元計画】

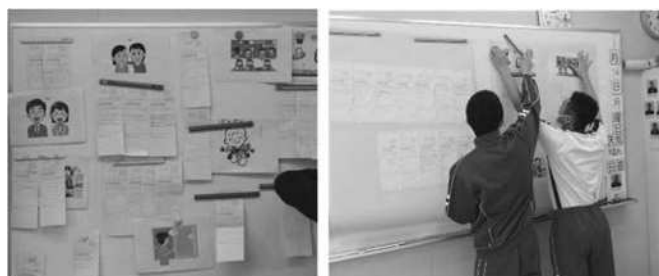
次	学習内容	指導内容
1	学校の現状や課題を知る。 ○目安箱や意見書を準備し、設置する。 ○教師にインタビューを行う。	○意見を述べ合い助け合い協力しながら生活する必要性を理解しそのための知識や技能を身に付ける。 (生小3、社中2)
2	集まった意見を整理し、自分の意見をまとめる。 ○意見のカテゴリー分けを行う。 ○自分の考えや意見をまとめて、発表資料をつくる。	○見聞きしたことや経験したこと、自分の意見等について内容の大体が伝わるように伝える順序等を考える。 (国小3、中2、)
3	自分の意見を発表したり、友達の発表を聞いたりして、意見交換する。 ○自分の考えを発表したり、友達の考えを聞いたりする。 ○感想や意見を発表し合う。	○学校全体の生活をよりよくするための課題を見だし、その解決のために話し合い、合意形成や意思決定することで、よりよい人間関係を形成することができるようにする。 (特別活動)

第1次では学校の現状や課題を知る学習に取り組んだ。目安箱作成設置や意見書の準備等については、それぞれが自分の役割を果たして活動に取り組むことができた(図37)。教師へのインタビューについては、教師の発言の中心を聞き取ってメモをとることが難しい生徒もいたが、教室に戻ってか



〔図37 目安箱の設置やインタビューの様子〕

ら、友達と話し合っ、メモにまとめる様子が見られた。この取組によって、相手の話を聞きながら、書くことという二つのことを一緒に行うことの難しさに改めて気付いた。今後の学習の中で適切に指導・支援していきたい。



〔図 38 意見をカテゴリー分けする様子〕

第2次では、集まった意見を整理し、自分の意見をまとめる学習に取り組んだ（図 38）。事前に教師が集まった意見を把握し、カテゴリーをイメージしやすいようにイラストカードを準備しておいた。生徒は1枚1枚読んで、意味や内容を読み取って、生徒同士で話し合いながら、分類することができた。意見としては、小中高の学部間交流やあいさつ運動、校内の環境整備に関すること等があった。分類した後、一人一人が自分の考える「よりよい学校生活」についてまとめ、発表準備を行った。意見を書く指導においては、「〇〇〇な学校にするために〇〇〇したい」というように目標や活動を明確にして表すように提示した。

第3次では、自分の意見を発表したり、友達の発表を聞いたりして、意見交換する学習に取り組んだ（図 39）。文字や言葉の理解が難しい生徒には、イラストを活用して、自分のやってみたいことや友達の意見でいいと思った活動を選択できるようにした。また、自分の思いがあっても、自分から言い出すことに消極的な生徒が多いため、意見表出のきっかけを作りとして、全員に「いいね」や「やってみたい」「もっと教えて」という札を準備し



〔図 39 自分の意見を発表する活動の様子〕

た。札を上げることはどの生徒もスムーズにでき、その後で言葉を選びながら、自分の意見を友達に伝えることができた。また、この授業を経てから、進んで友達や教師と話す姿が見られるようになってきた。

本授業研究の成果と課題としては以下のようにまとめることができた。

【成果】

- ・自分の考えの発表の活動では、意見に対し肯定的な内容の札を上げることをきっかけとして、全員が自分の思いを表現することができた。
- ・目安箱やインタビュー等により、いろいろな意見を知ることができ、多角的な視点で自分なりの「よりよい学校生活」について考えることができた。
- ・実際の児童生徒会選挙活動では、2年生の考えに共感して、応援活動を行うことができた。

【課題】

- ・ 今後、具体的にどのようにによりよい学校づくりを実現していくかについて、さらに友達同士意見交換をしたり、教師にも援助を求めたりしながら、継続的に考え続けていくことが求められる。
- ・ 友達と意見交換しながら意見内容を分類したり、札をきっかけに積極的に自分の意見を表現したりする等、この単元を通して身に付けた力を、日常生活でも発揮できるように段階的に指導を行う必要がある。また、話を聞き取りながらメモしたり、話の中心を聞き取ったりすること等についても、計画的に指導していかなければならない。

今後、進級して社会へと巣立つ生徒たちには、新たな環境や新しい人との出会いがある。ここでは、自分の考えと他者の考えを整理して、自分の思いを表出することが求められる。これからは生徒一人一人のよさや思いを大切にしながら、周囲の意見や環境を受け入れ、柔軟に対応できる力が身に付くように指導・支援を行っていきたい。

